

2 学年に上がって最初の定期考査が終わり、部活動では県総体があり、そこで 3 年生が引退となる部活動も少なくなかったでしょう。前号で述べたように、この過渡期を経ると、いよいよ 2 年生が学校の雰囲気づくりを担うと言っても過言ではない時期がやってきます。旭陵祭も目前に迫る中ではありますが、自分を律して日々を大切に過ごせているのでしょうか？

皆さんの「志望」と「スタサポ等の結果」を照らし合わせると、多くの人が全国のライバルと比べて遅れをとっているのは動かない事実であり、ここからライバルたちを捲って逆転合格することが皆さんのミッションだということが明白です。

「やるしかない！」 前向きにトライしていきましょう。

○目標達成へのキーコンピテンシー

キーコンピテンシーという言葉に聞き覚えのある人も少なくないのではないのでしょうか？これは、昨年度 12 月に開かれた「難関大学集会」で配布された資料の中にもあった言葉です。予想をはるかに超えて 100 人以上集まったため、視聴覚教室には収まりきれず、急遽体育館で集会を開くことになったことをよく覚えています。キーコンピテンシーとは、“自分の持つ能力を活用し成果につなげる力「コンピテンシー」の中でも鍵となる特性・能力のこと”です。昨年度の難関大学集会での配布資料の中で紹介されたキーコンピテンシーを一部抜粋して改めて紹介し、今一度皆さんのモチベーションを刺激したいと思います。

【難関大合格へのキーコンピテンシー（一部抜粋）】

・第一志望大学への入学以外は考えていない

これは『高い志望を崩さず、一貫して努力を続けるということが当たり前のようにできる』ということです。勉強やスポーツ、芸術など、様々な分野において何かに打ち込むとなると、どこかで壁に当たる、挫折を味わうこととなります。もっと踏み込んで言えば、何かに打ち込む中で挫折は味わうべきだと私は思っています。挫折したときに初めて自分の足りない部分と本気で向き合えるようになるからです。また、壁に当たる、挫折するまで努力を重ねられているという証拠になると思います。この成長段階を踏むためには、高い意識を持続させることが必要条件です。

「〇〇大は難しそうだから、△△大に変える」、「今の自分の力からすると、〇〇大くらいがちょうどいいかな」と安易に志望を決めてしまうと、成長のチャンスを逃すことにもなりかねません。

・新書・新聞を日常的に読んでいる

とにかく多くの活字に触れる、そして多くの専門家（それぞれの分野の超オタク）の考えに触れることで、客観的（批判的）思考を日常的に行う力が身につきます。具体的には、「相手の意図に付き合うことができる」「言い訳をしないようになる」「自分よりも上位のものに向かう姿勢が身につく」などが挙げられます。また、「読むこと＝言語トレーニングをすること」なので、言語系の科目の勉強に直結しますし、様々な分野の基礎知識が備わることで、社会的課題への関心にもつながり、自己の進路と向き合う機会も自然と増えるでしょう。

・ 自分のために正しい努力をすることができる

正しい努力とは、ただ頑張るということではなく、「戦略」をもって努力することです。皆さんは、第一志望合格へ向けて、明確な戦略、ビジョンはありますか？そして、その戦略は本当に目標達成に対して最適ですか？まだそんな時期じゃない、早すぎると思う人もいるかもしれませんが、そんなことは絶対にありません！医学部受験では、中学校からそれを始めている人もゴロゴロいますし、難関大受験では、一度高校生活を修了した浪人生が当たり前のようにいます。（これはその他の大学でも言えることです。ちなみに、私が入った大学では入学者10名のところ、2名が浪人生でした。）

1年半後のことを想像して正しい戦略を立てるということは、今皆さんが一番すべきことなのではないでしょうか。

・ 自分自身と真摯に向き合うことができる

自分と向き合うということは、とても難しいことです。どうしても自分の感情が入ることから、自分を過小評価して限界を決めつけてしまったり、色々なことに目移りしてしまったりして本当に自分のやりたいことを見失ったりする可能性があります。それでも進路実現、自己実現を図っていくためには、一人で考え込むのではなく、保護者の方々、学校の教員、塾の先生、友人などとオープンに対話をしながら、自分の「核」を探っていくことが大切です。積極的な自己開示をすることで、友人であれば、相乗効果で互いに高め合えるでしょうし、保護者の方々や教員、塾の先生であれば、的確な助言が得られる可能性もあり、その後の協力体制がスムーズに整えられるという「戦略」にもつながります。

「自分自身と真摯に向き合う」ということは、自分以外の人と考えを共有することが必要不可欠です。最近、担任との個人面談が行われましたと思いますが、その意義を理解してもらえたのではないのでしょうか。

ぜひ、こちらから予定していなくても、積極的に個人面談を希望してみてください。対話の機会を増やせば増やすほど、自分の「核」を見つけるチャンスが増えるということですし、その後の戦略をより高度なものにでき、成功の可能性はグンと上がります。

いかがだったでしょうか。まだ2学年は始まったばかりですが、これを機に今一度自分のモチベーションや学習習慣を見直して、自分の持っている有限の時間の使い方を最適化していきましょう。

(文責・進路指導部 堀江 拓人)